

緊急避妊薬

使用者と提供者のためのキーポイント

- 緊急避妊薬（ECPs）は、避妊せずに行われた性交後に妊娠を回避するのに役立ちます。
- 緊急避妊薬は、避妊が不十分な性交（避妊せずに行われた性交または避妊したものの避妊手段が適切かつ十分でなかった性交）から5日までに内服した場合、妊娠を回避するのに役立ちます。早く服用するほど効果は高くなります。
- 緊急避妊薬は、既に成立している妊娠を中断することはありません。
- 全ての女性にとって安全です。たとえ継続的なホルモン避妊法を使用できない女性でも使用することができます。
- 女性が継続的な避妊法を開始するきっかけを提供します。
- 緊急避妊薬は、いくつかの選択肢があります。緊急避妊専用薬、黄体ホルモン単独の避妊薬、混合型（エストロゲン・プロゲステロン）ホルモン避妊薬（ヤッペ法）の全てが緊急避妊薬として使用できます。

緊急避妊薬とは？

- 緊急避妊薬は、“モーニングアフターピル”や“性交後避妊薬”と呼ばれることがあります。
- 卵巣からの卵子の放出（排卵）を抑制したり遅延させたりすることにより作用します。既に妊娠している場合は、緊急避妊薬は効果がありません。

（銅付加子宮内避妊具（IUD）も緊急避妊のために使用することができます。166 頁参照）

訳者注）日本で使用されている緊急避妊薬（レボノルゲストレル）およびヤッペ法による緊急避妊は、性交後 3 日（72 時間）以内の服用が定められています。性交後 5 日まで高い効果が持続することが示されているウリプリスタル酢酸は現時点では承認されていません。

どんな薬が緊急避妊薬として使用できますか






- レボノルゲストレル単独、もしくはウリプリスタル酢酸の緊急避妊薬専用薬
- レボノルゲストレルもしくはノルゲストレルが含まれる黄体ホルモン単独製剤
- エストロゲン・プロゲステロンの混合型ホルモン避妊薬 - プロゲステロンとしてレボノルゲストレル、ノルゲストレル、もしくはノルエチンドロン（いわゆるノルエチステロン）を含む

いつ服用したらよいですか

- 避妊が不十分な性交の後できるだけ早く服用してください。避妊が不十分な性交の後、早く服用するほど妊娠を回避する効果は高くなります。
- 避妊が不十分な性交後5日以内に服用すれば、妊娠を回避するのに役立ちます。

どのくらい効果がありますか

- もし100人の女性が避妊せずに月経周期の2週目または3週目の間に1回性交した場合、約8人の女性が妊娠すると考えられます。
- もし100人の女性が、ウリプリスタル酢酸の緊急避妊薬を使用した場合、妊娠する女性は1人以下になるでしょう。
- もし100人の女性が黄体ホルモン単独の緊急避妊薬を使用した場合、妊娠する女性は1人になるでしょう。
- もし100人の女性がエストロゲン・プロゲステロンの混合型ホルモン避妊薬による緊急避妊薬を使用した場合、妊娠する女性は2人になるでしょう。

緊急避妊薬(ECPs)の有効性	
 <p>もし100人の女性が避妊せずに月経周期の2週目または3週目の間に1回性交した場合…</p>	緊急避妊薬を使用しない場合 → 8人が妊娠 
	ウリプリスタル酢酸の緊急避妊薬 → 1人以下が妊娠 
	黄体ホルモン単独の緊急避妊薬(LNG含む) → 1人が妊娠 
	混合型(エストロゲン・プロゲステロン)緊急避妊薬(ヤッペ法) → 2人が妊娠 

緊急避妊薬を服用した後の妊孕性の回復について：遅延しません。女性は緊急避妊薬を服用した後すぐに妊娠が可能になります。緊急避妊薬の服用は、服用前5日以内の性交による妊娠のみ防ぎます。緊急避妊薬は、服用後24時間以上経過した後の性交による妊娠は防ぐことができません。継続的な避妊のためには、他の避妊法の使用を始めなければなりません。（P61 継続的な避妊法の検討を参照）

性感染症の予防効果：なし

副作用、健康上の利点・健康上のリスクについて

副作用 (P61の「あらゆる問題を管理する」も参照)

以下の副作用が生じることがあります。

- 出血・月経周期の変化 次のような事例を含む
 - 緊急避妊薬の服用後1-2日間の少量の不正性器出血
 - 月経が予定より早まる、もしくは遅れる

緊急避妊薬の服用後数日間は以下の副作用を生じることがある

- 吐き気[‡]
- 腹痛
- 倦怠感
- 頭痛
- 乳房の張り
- めまい
- 嘔吐[‡]

既知の健康上の利点

- 妊娠のリスクから守る

既知の健康上のリスク

なし

緊急避妊薬の誤解に対する訂正 (P62のQ&Aもご覧ください)

緊急避妊薬は：

- 思春期を含め、どの年代の女性にも使用できます
- 中絶・流産を引き起こしません
- 着床を妨げたり、影響を与えたりしません
- 妊娠成立した場合、先天異常を引き起こしません
- 女性の健康に対して危険なものではありません

(次頁へつづく)

[‡]黄体ホルモン単独の緊急避妊薬、または、ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬を使用する場合、エストロゲン・プロゲステンの混合型緊急避妊薬を使用する場合に比べ、吐き気・嘔吐を生じることが大幅に少ないです。

- リスクのある性行動を増やしません
- 女性の不妊の原因になりません
- 1回の月経周期において複数回使用できます

不必要な手順・処置を避ける

- 女性は、ヘルスケアプロバイダー（医療従事者）に最初に会わなくても必要時に緊急避妊薬を服用できます。
- 緊急避妊薬を服用する前にいかなる処置も検査も不要です。例外として、月経が遅れている女性は、ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬を服用する前に妊娠検査を行うことが勧められます。

なぜ緊急避妊薬が好ましいのでしょうか

- 必要なときに使用できるため
- 望まない妊娠を防ぐための2度目のチャンスになるため
- もし性交が強要された場合や、避妊法を使用するのを阻止された場合、女性が妊娠を避ける選択肢になるため
- 女性自身によって選択できるため
- 避妊の失敗があった場合や避妊法が用いられなかった場合、中絶の必要性を減らすため
- 必要となったときに備えておけるため



誰が緊急避妊薬を使用できますか

全ての女性にとって安全かつ使用可能です

緊急避妊薬を使用する前には検査や診察は不要です

緊急避妊薬のための医療適格基準

既存のホルモン避妊法を使用できない女性を含む全ての女性が緊急避妊薬を安全で効果的に使用できます。緊急避妊薬は短期的な使用であるため、安全性を脅かす医学的状態はありません。

緊急避妊薬の提供

緊急避妊薬は、さまざまな状況で必要となります。しかしながら、多くの女性は緊急避妊薬について知りません。特に、経口避妊薬やコンドームなど、使用する人に依存した避妊法を使用する女性にとって、緊急避妊薬について知ることの利益は大きいです。

可能であれば、必要とする可能性がある全ての女性に前もって緊急避妊薬を渡しておきましょう。もし緊急避妊薬を事前に提供することが難しい場合は、処方箋を事前に提供すること、もしくは、地域のどこにいけば処方箋を事前に入手出来るか情報提供しましょう。

緊急避妊薬を事前に提供することで、女性が必要な場合に備え、もっておくことが可能になりするため、有用です。必要になったときにすでに手元にあると、緊急避妊薬を使用する可能性がより高くなります。さらに、手元においておくことは、効果が最も高い性交後すぐに緊急避妊薬を服用することを可能にします。

利用のタイミング

- 避妊が不十分な性交（避妊せずに行われた性交または避妊したものの避妊手段が適切かつ十分になかった性交）の後、5日以内であればいつでも利用可能です。緊急避妊薬は、避妊が不十分な性交の後に早く服用すればするほど効果的です。

多くの状況に適した緊急避妊薬

緊急避妊薬は、妊娠するかもしれないと心配になるどんな状況でも使用することができます。例えば、以下の状況が挙げられます。

- 性的暴行
- 避妊が不十分な性交
- 以下のような避妊の失敗
 - コンドームが誤った方法で使用された、滑脱した、または破損した場合
 - カップルがリズム法を誤った方法で使用した場合（例えば、妊娠可能期間に、禁欲しなかった、もしくは別の避妊法を使用しなかった場合）
 - 男性が射精する前に、意図したように膣外射精をすることができなかった場合
 - 女性が3錠以上の混合型経口避妊薬を服用し損ねた後、または3日以上遅れて新しいシートを開始した後、避妊が不十分な性交を行った場合
 - 子宮内避妊具（IUD）が脱落した場合
 - 女性のデポ-メドロキシプロゲステロン酢酸（DMPA）の避妊注射が4週間以上遅れている、エナント酸ノルエチステロン(NET-EN)の避妊注射が2週間以上遅れている、または毎月の避妊注射が7日以上遅れている際に避妊が不十分な性交を行った場合



緊急避妊のための製剤と服用方法

錠剤とホルモン	配合	最初に内服する錠数	12 時間後内服する錠数	
緊急避妊専用の製品				
黄体ホルモンのみ	1.5mg LNG	1	0	
	0.75mg LNG	2	0	
ウリプリスタル酢酸	30mg ウリプリスタル酢酸	1	0	
経口避妊薬を緊急避妊薬として使用する場合				
混合型（エストロゲン・プロゲステロン）経口避妊薬	0.02mg EE + 0.1mg LNG	5	5	
	0.03 mg EE + 0.15 mg LNG	4	4	
	0.03 mg EE + 0.125 mg LNG	4	4	
	0.05 mg EE + 0.25 mg LNG	2	2	
	0.03 mg EE + 0.3 mg ノルゲストレル	4	4	
	0.05 mg EE + 0.5 mg ノルゲストレル	2	2	
	黄体ホルモン単独の製剤	0.03 mg LNG	50*	0
		0.0375 mg LNG	40*	0
	0.075 mg ノルゲストレル	40*	0	

* 錠数が多いですが、安全です。質問 8、p.63 を参照してください。

LNG=レボノルゲストレル EE=エチニルエストラジオール

緊急避妊薬と経口避妊薬の銘柄については、以下を参照してください。

緊急避妊ウェブサイト (<http://ec.princeton.edu>) と緊急避妊のための国際コンソーシアム (<http://www.cecinfo.org>)

緊急避妊薬の渡し方について

1. 薬を渡す	<ul style="list-style-type: none">● その場ですぐに薬を服用できます。● 2回服用する投与方法を行う場合には、12時間後に次の内服をするように伝えましょう。
2. 最も一般的な副作用について説明する	<ul style="list-style-type: none">● 吐き気、腹痛、その他の症状● 軽度の出血や月経のタイミングの変化● 副作用は病気の兆候ではなく、長く続くものではない。ほとんどの女性には副作用はない。
3. 副作用についての対処法を説明する	<ul style="list-style-type: none">● 吐き気：<ul style="list-style-type: none">- 制吐剤（吐き気止め）のルーチンの使用は推奨しない。- 以前に緊急避妊薬を使用した際に吐き気を生じた女性、または2回服用する投与方法で最初の服用の際に吐き気を生じた女性は、緊急避妊薬を服用する30分～1時間前にメクリジン塩酸塩 25～50mg（Agyrax、Antivert、Bonine、Postafene など）などの制吐剤を服用できる。● 嘔吐<ul style="list-style-type: none">- 黄体ホルモン単独または混合型（エストロゲン・プロゲステロン）緊急避妊薬（ヤッペ法）を服用してから2時間以内に嘔吐した場合は、再度緊急避妊薬を服用すべきである。ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬の服用後3時間以内に嘔吐した場合は、再度服用すべきである。嘔吐が続く場合は、黄体ホルモン単独の緊急避妊薬または混合型（エストロゲン・プロゲステロン）緊急避妊薬を腔の奥に挿入することができる。 黄体ホルモン単独、または混合型（エストロゲン・プロゲステロン）緊急避妊薬を服用して2時間以上経過した後に嘔吐した場合、またはウリプリスタル酢酸緊急避妊薬を服用して3時間以上経過した後に嘔吐した場合は、追加の薬を飲む必要はない。
4. 緊急避妊薬を多めに渡し、女性が継続的な避妊法を開始するのをサポートする	<ul style="list-style-type: none">● 可能であれば、今後緊急避妊薬が必要になる場合に備えて、より多くの緊急避妊薬を持ち帰ってもらう● 継続的な避妊法については、p.61を参照してください。
5. フォローアップ	<ul style="list-style-type: none">● 月経が7日以上遅れる場合は、妊娠検査のために再来するよう促す。

"いつでもまた来てくださいね": 再来が必要な場合

ルーチンの再来は必要ありません。使用者にはいつでもまた来ることを歓迎していると伝えましょう。また、以下の場合には再来するよう伝えましょう。

- 妊娠したかもしれないと思ったとき、特に月経がなかったり、次の月経が7日以上遅れたりしたとき。
- 緊急避妊薬を使用した直後には継続的な避妊法を始めなかったけれど、始めたくなったとき。

パートナーには何ができるか？

パートナーがカウンセリングに参加し、緊急避妊法について、またパートナーをどう支えられるかを学ぶことは歓迎されます。男性パートナーは以下のことができます。

- 女性の緊急避妊薬を使用するという決断をサポートしましょう
- 女性が継続的な避妊法を選択・使用する必要性を理解し、サポートしましょう
- 再び緊急避妊薬が必要になった場合に備えて、女性が緊急避妊薬を確実に手元に持っていられるようにサポートしましょう
- 避妊法を誤った使用によって緊急避妊薬が必要になった場合は、その避妊法の正しい使用法を理解し、正しく使えるようサポートするか、別の避妊法を使用するか話し合しましょう。



緊急避妊の使用後に避妊を開始または再開する時期

方法

開始もしくは再開のタイミング

ホルモン避妊法

(混合型エストロゲン・プロゲステロン経口避妊法、黄体ホルモン単独のピル、黄体ホルモン単独の注射、毎月の注射、インプラント、混合型パッチ、混合型膣リング)

黄体ホルモン単独の緊急避妊法、または混合型（エストロゲン・プロゲステロン）緊急避妊法（ヤッペ法）の使用後：

- 緊急避妊薬を使用した後すぐにどの方法でも開始・再開することができる。次の月経を待つ必要はありません。
 - 継続的に経口避妊薬を使用している人は、以前の続きから使用を再開できます。新しいシートから開始する必要はありません。
 - パッチユーザーは新しいパッチを開始してください。
 - 膣リングをご使用の方は、126 ページの遅い交換または取り外しの指示に従ってください。
- すべての女性は、その方法を使用する最初の 7 日間は、性交を控えるか、バックアップの方法*を使用する必要があります。
- 継続的な避妊法をすぐに開始せずに、後日女性が再来した場合、妊娠していないことがほぼ確実であれば、いつでもどの避妊法でも開始することができます。

ウリプリスタル酢酸（UPA）緊急避妊薬の使用後

- ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬を服用した 6 日目からプロゲステロンを含む避妊薬はどの方法でも開始・再開することができます。次の月経を待つ必要はありません。(黄体ホルモンを含む避妊薬をより早く開始した場合、黄体ホルモンとウリプリスタル酢酸の両方の効果が低下する可能性があります。)
 - 経口避妊薬、膣リング、パッチを使用したい場合は、それらの製品を渡し、ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬を服用後 6 日目から始めるように伝えてください。注射やインプラントを使用したい場合は、ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬を服用後 6 日目、またはそれ以降できるだけ早く再来の予約をしましょう。
 - すべての女性は、ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬を服用後、ホルモン避妊法を開始してから 7 日間（黄体ホルモン単独のピルの場合は 2 日間）経過するまで、バックアップの方法を使用する必要があります。
- 継続的な避妊法を 6 日目に開始せず、後日女性が再来した場合、妊娠していないことがほぼ確実であれば、いつでも任意の避妊法を開始することができます。

*バックアップの方法には、禁欲、男性用・女性用コンドーム、殺精子剤、膣外射精があります。殺精子剤と膣外射精は避妊法としては効果が低いことを伝えましょう。可能であれば、コンドームを渡しましょう。

方法

開始もしくは再開のタイミング

レボノルゲストレル 放出子宮内避妊 システム(LNG-IUD)

黄体ホルモンのみの緊急避妊法、または混合型（エストロゲン・プロゲステロン）緊急避妊法（ヤッペ法）使用後：

- 女性が妊娠していないと判断することができればいつでも、LNG-IUD を挿入することができます（妊娠を除外する、p.439 を参照してください）。
- LNG-IUD 挿入後の最初の 7 日間はバックアップの方法*を使用する必要があります。

ウリプリスタル酢酸（UPA）緊急避妊薬の使用後

- 女性が妊娠していないと判断することができれば、ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬の服用後 6 日目に LNG-IUD を挿入することができます。
 - 女性が LNG-IUD を使用したい場合は、ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬の服用後 6 日目、またはその後できるだけ早く、LNG-IUD を挿入するための予約をします。
- 彼女はウリプリスタル酢酸緊急避妊薬の服用後、LNG-IUD が挿入されてから 7 日経過するまでバックアップ方法を使用する必要があります。
- 6 日目に LNG-IUD を挿入せず、後日戻ってきた場合、妊娠していないと判断できれば、いつでも挿入することができます。

銅付加子宮内避妊具 (Cu-IUD)

黄体ホルモンのみの緊急避妊法、混合型（エストロゲン・プロゲステロン）緊急避妊法（ヤッペ法）、もしくはウリプリスタル酢酸の緊急避妊薬を服用した後：

- 緊急避妊薬を服用した後に銅付加 IUD を使用する場合、緊急避妊薬を服用した同日に挿入することができます。バックアップの方法は必要ありません。
- すぐに挿入しないで、後日挿入する場合は、妊娠していないと判断できれば、いつでも銅付加 IUD を挿入することができます。

緊急避妊のために銅付加 IUD を使用することも出来ます。避妊せずに行われた性交後 5 日以内に緊急避妊のために IUD を挿入し、継続的な避妊として使用したい場合はそのまま使用し続けることができます（銅含有 IUD、p.155 を参照）。

方法

開始もしくは再開のタイミング

女性の不妊手術

黄体ホルモンのみの緊急避妊法、混合型（エストロゲン・プロゲステロン）緊急避妊法（ヤッペ法）、もしくはウリプリスタル酢酸緊急避妊薬を服用した後：

- 不妊手術は、次の月経が始まってから7日以内、または妊娠していないことが合理的に確実な場合はいつでも行うことができます。避妊手術を受けられるようになるまでの間はバックアップ方法を提供してください。

男性用・女性用 コンドーム、 殺精子剤、 ダイヤフラム、 子宮頸部キャップ、 膣外射精

黄体ホルモンのみの緊急避妊法、混合型（エストロゲン・プロゲステロン）緊急避妊法（ヤッペ法）、もしくはウリプリスタル酢酸緊急避妊薬を服用した後：

- すぐに開始できます。

リズム法

黄体ホルモンのみの緊急避妊法、混合型（エストロゲン・プロゲステロン）緊急避妊法（ヤッペ法）、もしくはウリプリスタル酢酸緊急避妊薬を服用した後：

- Standard Days Method：次回の月経開始とともに使用できます。
 - Symptoms-based methods：正常な頸管粘液の分泌が戻ってきたら
 - 選択した方法を開始できるようになるまでバックアップの方法を提供してください。
-

使用者への支援

継続的な避妊を計画する

1. 緊急避妊薬は服用してから 24 時間以降の性交による妊娠は防ぐことはできないことを説明しましょう。継続的な避妊の必要性と選択について話し合いましょう、またリスクがある場合は HIV を含む性感染症の予防（HIV を含む性感染症、p.329 を参照）について話し合いましょう。
2. 女性が直ちに避妊法を開始したくない場合は、コンドームもしくは 1 周期分の経口避妊薬を渡して、気が変わったら使ってもらえるようにしましょう。使用方法を説明しましょう。別の避妊法を希望する場合、質問や困ったことがあれば、いつでも戻ってくるように伝えましょう。
3. 可能であれば、今後必要となったときに使用できるようにより多くの緊急避妊薬を提供しましょう。緊急避妊薬を服用後 24 時間経過してから再び避妊せずに性交をした場合は、再度緊急避妊薬が必要になります。

問題が起きたときの対処法

副作用として報告されている症状

緊急避妊薬が原因である場合とそうでない場合があります。

軽度の不正性器出血

- 緊急避妊薬による不正性器出血は、治療をしなくても止まります。
- 不正性器出血は病気や妊娠の兆候ではないことを女性に伝えましょう。

次の月経のタイミングの変化や妊娠の疑い

- 月経が予想よりも数日早く始まったり、遅くなったりすることがあります。これは病気や妊娠のサインではありません。
- 緊急避妊薬を服用した後、次の月経が予定より 7 日以上遅れている場合は、妊娠の可能性を評価してください。緊急避妊薬で妊娠の回避ができなくても、胎児への既知のリスクはありません（次ページの質問 3 参照）。

訳者注）日本で使用されている緊急避妊薬（レボノルゲストレル）およびヤッペ法による緊急避妊は、性交後 3 日（72 時間）以内の服用が定められています。性交後 5 日まで高い効果が持続することが示されているウリプリスタル酢酸は現時点では承認されていません。

緊急避妊薬についての Q&A

1. 緊急避妊薬の作用機序は？

緊急避妊薬は卵巣からの排卵を妨げたり、排卵を 5～7 日遅らせたりします。精子は女性の生殖器官のなかで約 5 日間しか生存できないため、それまでに精子はすべて死滅します。排卵が起こり、卵子が受精した場合、緊急避妊薬は着床を妨げたり、すでに成立した妊娠を中断させたりすることはありません。

2. 緊急避妊薬は成立した妊娠に影響を与えるか？

いいえ、女性がすでに妊娠している場合、緊急避妊薬の効果はありません。

3. 女性が妊娠中に誤って緊急避妊薬を服用した場合、胎児に害を及ぼすことはないのでしょうか？

緊急避妊薬を服用したときにすでに妊娠していたり、緊急避妊薬が妊娠を予防できなかったりした場合、緊急避妊薬が先天異常を引き起こしたり、胎児に害を及ぼすことを示すエビデンスはありません。

4. 緊急避妊薬はいつまで妊娠を防ぐのか？

緊急避妊薬を服用している女性は、すぐに別の避妊方法を使い始めない限り、次の性交で妊娠する可能性があることを理解しておく必要があります。緊急避妊薬は排卵を遅らせることがあるため、緊急避妊薬を服用してすぐが最も妊娠しやすい状況である可能性があります。継続的な避妊を望む場合は、次の日までに別の避妊方法を使用し始めなければなりません。特に、ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬を服用している女性は、ホルモン避妊法を開始するには 6 日目まで待たなければなりません。この期間は別の避妊法を使用しなければなりません。

5. 緊急避妊薬は複数回使用できますか？

はい。必要であれば同一周期で再度使用することができます。緊急避妊薬を必要とする女性はより長期間作用型の、より効果的な家族計画法を検討した方が良いでしょう。

6. 女性は継続的な避妊法として緊急避妊薬を利用すべきか？

女性は緊急避妊薬を必要とするときはいつでも、同一周期に複数回使用できます。しかし、継続的な避妊法として緊急避妊薬に使用することはお勧めできません。性交後に毎回服用する緊急避妊薬が、通常の継続的な避妊法と同じくらい効果があるかどうかは確かではありません。また、頻繁に緊急避妊薬を服用している女性は、より多くの副作用が起こる可能性があります。緊急避妊薬を繰り返し使用しても、健康上のリスクは知られていません。しかし、頻繁に緊急避妊薬を服用している女性に対して、ホルモン避妊法の使用を制約する健康状態がないか確認することは有用かもしれません。

7. 緊急避妊薬として使用できる経口避妊薬は？

多くの混合型（エストロゲン・プロゲステロン）経口避妊薬と黄体ホルモン単独のピルが緊急避妊薬として使用できます。緊急避妊に使用されるホルモン（レボノルゲストレル、ノルゲストレル、ノルエチンドロン、およびこれらの黄体ホルモンのいずれかと卵胞ホルモン（エチニルエストラジオール）を含むすべてのピルを使用することができます。

8. 緊急避妊薬として黄体ホルモン単独のピルを 40 錠や 50 錠を服用しても安全でしょうか？

はい。黄体ホルモン単独の錠剤には極少量のホルモンしか含まれていないため、緊急避妊として必要な量を得るためには多くの錠剤を服用する必要があります。一方、エストロゲンとプロゲステロンを併用した経口避妊薬の緊急避妊薬の投与量は、一般的に 2~5 錠を 12 時間あけて 2 回服用するのみ。エストロゲンとプロゲステロンの配合経口避妊薬を 40 錠や 50 錠を服用してはいけません。

黄体ホルモン単独の避妊薬を継続して利用している女性にとっては、最も利用しやすい、あるいは時間内に利用できる唯一の方法かもしれません。

9. ウリプリスタル酢酸（UPA）とは何ですか？

ウリプリスタル酢酸は抗黄体ホルモン薬であり、月経周期における天然のホルモンであるプロゲステロンの活性を調節します。このようにして他の緊急避妊薬と同様に卵巣からの排卵を止める、もしくは遅らせることで避妊の効果を持つと考えられます。すべての緊急避妊薬は、最大の効果を得るために、できるだけ早く服用する必要があります。ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬は他の緊急避妊薬よりも、避妊せずに行われた性交の後 72 時間から 120 時間の間の効果が高い可能性があります。ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬はヨーロッパでは 2009 年から販売されており、2010 年には米国食品医薬品局から緊急避妊薬としての使用が承認され、現在 50 カ国以上で販売されています。ウリプリスタル酢酸緊急避妊薬は、継続的な経口避妊薬としての使用は意図されていません。

10. 緊急避妊薬は HIV 陽性の女性にとって安全ですか？抗 HIV 療法を受けている女性にとって、緊急避妊薬は安全ですか？

はい。HIV 陽性の女性や抗 HIV 療法を受けている女性は、安全に緊急避妊薬を使用することができます。

11. 緊急避妊薬は思春期の女子に適していますか？

はい。13~16 歳の女子を対象とした研究では、緊急避妊薬の使用は安全であることが示されています。さらに、研究参加者全員が緊急避妊薬を正しく使用することができました。また、緊急避妊薬へのアクセスが性的行動に影響を与えることはありません。

思春期の子どもたちは、強制的性交の割合が高いこと、避妊薬を入手することに対するステイグマがあること、計画的な性交を行いつらいこと、避妊の失敗が多いなどの理由から、特に緊急避妊薬を必要とする可能性があります。

12. 混合型（エストロゲン・プロゲステロン）経口避妊薬や黄体ホルモン単独のピルを継続的に使用できない女性でも、安全に緊急避妊薬を使用することができますか？

はい。緊急避妊薬の使用は非常に簡潔で、投与量が少ないためです。

13. 緊急避妊薬で妊娠を防ぐことができなかった場合、異所性妊娠（子宮外妊娠）になる可能性が高くなりますか？

緊急避妊薬が異所性妊娠のリスクを高めることを示唆するエビデンスはありません。米国食品医薬品局（Food and Drug Administration）のレビューを含む、黄体ホルモン単独の緊急避妊薬に関する世界的な研究では、緊急避妊薬で妊娠が回避できなかった場合の異所性妊娠の割合は、一般的な妊娠に比べて高くないことが示されています。

14. なぜ女性に緊急避妊薬が必要となる前に提供すべきですか？それによって避妊しなくなったり、避妊法の使用に影響を与えたりしますか？

女性に緊急避妊薬を事前に提供した研究では、これらの知見が報告されています。

- 緊急避妊薬を手元に持っていた女性は、緊急避妊薬を手元に持っていなかった女性よりも、避妊せずに行われた性交後すぐに緊急避妊薬を服用した。黄体ホルモン単独の緊急避妊薬は、より早く服用した方が効果的である可能性が高い。
- 緊急避妊薬を事前に提供された女性の方が、事前に提供されなかった女性よりも、必要な時に緊急避妊薬を利用する可能性が高かった。
- 緊急避妊薬を事前に提供されていても、緊急避妊薬を持っていないときと同様に、他の避妊法を継続して使用していた。
- 避妊しない性交が増えることはなかった。

もし緊急避妊薬に処方箋が必要で事前に提供できない場合は、事前に処方箋を渡し必要に応じて使用できるようにしましょう。

15. 女性が緊急避妊薬を店頭で購入した場合、正しく使用できますか？

はい。緊急避妊薬は簡単で、医学的管理下におく必要はありません。研究によると、若い女性も大人の女性も、ラベルや説明書を簡単に理解できるという結果が出ています。カナダ、中国、インド、米国、その他世界中の多くの国では、緊急避妊薬は店頭販売または処方箋なしでの使用が承認されています。

本翻訳について

これは、WHO の許可を得て、リプラ（リプロダクティブライツ情報発信チーム） & 緊急避妊薬の薬局での入手を実現する市民プロジェクトが「避妊・家族計画 -提供者のためのグローバルハンドブック 2018 年版 第3章 緊急避妊薬」“Chapter 3 Emergency Contraceptive Pills - Family Planning - A global handbook for providers 2018 edition”を有志で翻訳したものです。WHO はこの翻訳の内容や正確性について責任を負いません。英語版と日本語版の間に矛盾がある場合は、英語版の原文が真正で拘束力があります。原文および参考文献は QR コードもしくは以下 URL からご参照ください。

<https://www.who.int/reproductivehealth/publications/fp-global-handbook/en/>



日本語版 ©リプラ（リプロダクティブライツ情報発信チーム） & 緊急避妊薬の薬局での入手を実現する市民プロジェクト 2021

	 <p># 緊急避妊薬を薬局で 緊急避妊薬の薬局での入手を実現する市民プロジェクト Citizen' s Initiative for Pharmaceutical Access To Emergency Contraception (CIPATEC)</p>
---	--